

Reference Tool

取扱説明書

SCEI CONFIDENTIAL



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故を起こすことがあります。

この取扱説明書は、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DECR-1000



2-886-333-03(1)

安全のために

当社製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることもあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ず守ってください。

安全のための注意事項を守る

本書に書かれている注意事項をよく読んでください。

定期的に点検する

設置するときは、次のことを点検してください。また、設置したあとも、1年に1度は点検してください。

- 電源コードに傷みはないか？
- 電源コードのプラグとコンセントの間や、通風孔にほこりがたまっていないか？

故障したら使わない

動作がおかしいときや壊れたとき、電源コードが傷ついたときは、すぐに販売元までご相談ください。

異常が起きたら

異常な音やにおいがしたり、煙が出たりしたら

- ① 電源コードのプラグをコンセントから抜く。
- ② 販売元に連絡する。

炎が出たら

- 電源コードのプラグをコンセントから抜くか、電気のブレーカーを落とす。
- 大声で人を呼ぶ。
- 水をかけるか、消火器を使って火を消す。
- 119番に通報する。

本機のAC電源入力端子には、電源コード抜け防止カバーが付いています。非常時には電源コードのプラグ側（コンセント側）を抜いてください。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文を読んでください。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などによる死亡や大けがなど、人身事故の原因となります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故により、けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



水ぬれ禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

目次

1 概要.....	7
Reference システムの構成概略	7
本機の特徴	7
システム使用時の必要機材	8
Reference システムのセットアップ概要	8
各部の名称と働き	9
2 準備.....	14
縦置きスタンドの取り付け	14
ハードウェアの接続.....	15
デバッグ用ネットワークの接続	16
管理ツールによるセットアップ	18
3 その他	24
本機の取り扱いについて	24
フィルタユニットのクリーニング	24
故障とお考えになる前に	25
仕様	27
免責	28

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

また本機は、電気通信事業法に基づく技術基準適合認定を受けています。

認証機器名は次のとおりです。

認証機器名：DECR-1000

ただし、以下の事項を行うと法的に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること
- 本機の底面にある証明番号を消すこと

周波数について

本機は 2.4GHz 帯の 2.4000GHz から 2.497GHz まで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

本製品の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- 1) 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2) 万一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本製品の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射の停止）してください。

2.4DS/OF2

2.4FH2

この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として DS-SS 変調方式、OFDM 変調方式および FH-SS 変調方式を採用し、与干渉距離は 20m です。

**警告**

火災



感電

下記の注意を守らないと、**火災や感電により
死亡や大けが**につながる可能性があります。



禁止

電源コードを傷つけない

火災や感電の原因となります。電源コードが傷ついたら、販売元までご相談ください。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込まない。
- 加工しない。傷つけない。
- 強く折り曲げない。
- 熱器具に近づけない、加熱しない。
- 重い物を載せない。引っ張らない。
- 本体を移動するときは電源コードのプラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持ってまっすぐ抜く（プラグをななめに抜かない。コードを引っ張らない）。



禁止

専用の電源コード以外は使わない

火災や感電の原因となります。本機専用の電源コードを使ってください。



分解禁止

分解／改造しない

火災や感電、けがの原因となります。また、ディスクを読み出すためのレーザー光が目に入ると視力障害を起こす原因となります。



水ぬれ禁止

内部（端子類／通風孔）に水や異物を入れない

火災や感電の原因となります。水や異物が入ったときは、すぐに電源コードのプラグをコンセントから抜き、販売元までご相談ください。



禁止

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気の当たる場所に置かない

火災や感電の原因となります。



禁止

雷が鳴り出したら、電源コードのプラグには触れない

感電の原因となります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源コードのプラグに触れない

感電の原因となります。



禁止

通風孔をふさがない

本体が過熱して、火災やけが、故障の原因となります。風通しを良くするために、次のことを守ってください。

- 壁から10cm以上離して設置する。
- 毛足の長いじゅうたんや布団の上に設置しない。
- 密閉された狭い場所に押し込まない。
- 布などで包まない。
- ほこりをためない。



下記の注意を守らないと、**火災や感電により死亡や大けが**につながる可能性があります。



プラグをコンセントから抜く

使わないときやお手入れをするときは、電源コードのプラグを抜く

長期間使わないときは、安全のためプラグをコンセントから抜いてください。差し込んだままにしていると火災の原因となります。また、プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となります。



指示

指定されたケーブル類を使う

取扱説明書に指示されているケーブル類を使わないと、感電や故障の原因となります。



指示

ケーブル類はきちんと接続する

- 端子部の内部に金属片を入れないでください。ショートして火災や故障の原因となります。
- ケーブルのコネクターは、まっすぐに差し込んでください。斜めに差し込むとショートして、火災や故障の原因となります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それでしっかり固定してください。接続不良を防げます。



禁止

電源コードを抜いた直後は、金属部分に触れない

電源コードを抜いた直後に、コードのプラグや、ACインレットの金属部分に触らないでください。感電の原因となります。



指示

運搬／設置作業は2人以上で行う

運搬／設置／スタンド取り付けなどをするときは、2人以上で行ってください。

**注意**

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり**周辺の物品に損害**を与えたりすることがあります。

**禁止****本体の上に重い物を載せない**

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となります。

**禁止****ひび割れ、変形、補修したディスクを使わない**

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となります。

**禁止****不安定な場所に置かない**

ぐらついた台の上などに置くと、本体や周辺機器が落ちて、けがや故障の原因となります。置き場所などの強度も充分に確かめてください。

**禁止****大音量で聞かない**

耳に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンを使って聞くときは注意してください。まわりの音が充分に聞こえるくらいの音量で聞きましょう。

**禁止****通電中の本体を長時間触らない**

本体に皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となります。

**指示****幼児の手の届かないところに置く**

小さなお子様が、本体やケーブルなどで遊ばないように、手の届かないところに置いてください。ケーブルを引っ張って本体や周辺機器が落ちたり、ケーブルを首に巻きつけたりして、けがや故障の原因となります。

**指示****本体とケーブル類は正しく配置する**

ケーブルなどを足に引っかけると、本体が倒れたり、落ちたりして、けがや故障の原因となります。

**指示****長時間画面を見ない**

目が疲れたり、視力が低下したりするおそれがあります。画面を見続けて体の一部に不快感や痛みなどがするときは、すぐに休息してください。それでも不快感や痛みがとれないときは、医師の診断を受けてください。

**禁止****通風孔には触れない**

本体背面の通風孔は大変熱くなります。通電中や、電源を切ってからしばらくの間は、触らないでください。やけどの原因となります。特に、通風孔の近くにある主電源スイッチを操作するときは注意してください。

**指示****ディスクやHDDの飛び出しに注意する**

ディスクやHDDのイジェクト操作をするときに、ディスクやHDDが飛び出すことがあります。

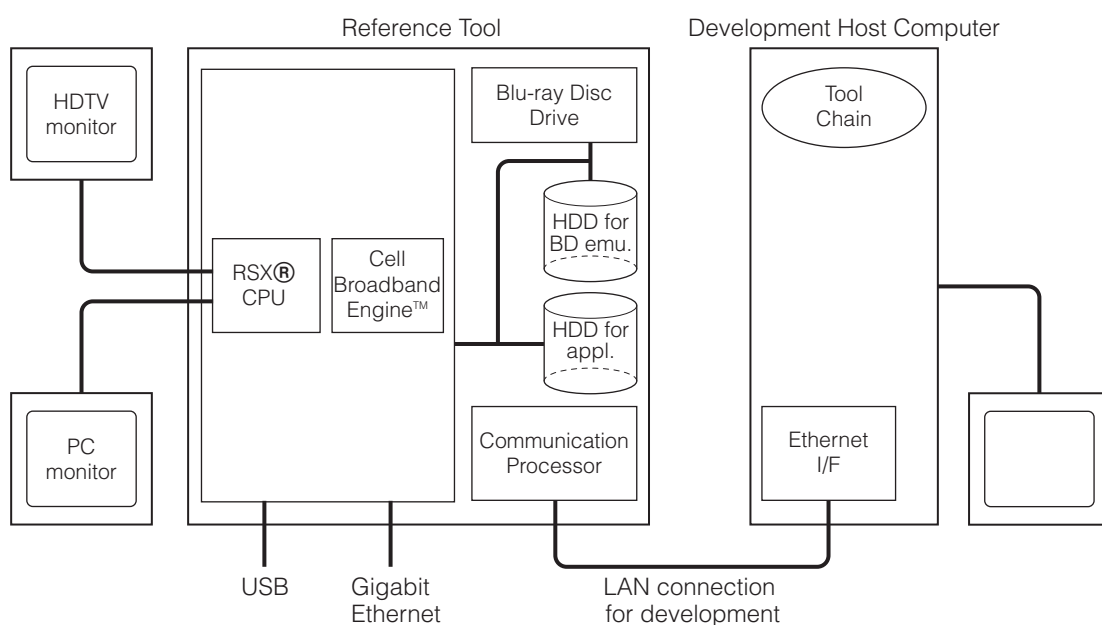
**指示****ユーザーデータのバックアップを取る**

記録メディアやHDDのデータが本機の不具合で消失しても困らないように、重要なデータはあらかじめバックアップをとってください。

1 章 概要

Reference システムの構成概略

Reference システムの構成概略図を次に示します。



本機の特徴

本機は以下の部分で構成されています。

- ギガビットEthernet、USBなどの周辺装置を備えた、Cellプロセッサ (Cell Broadband Engine) 搭載のターゲットシステム
- HDD、Blu-ray Discドライブ
- 開発用ホストコンピュータとの通信を司るコミュニケーションプロセッサ

コーディングやコンパイルなどの作業は、Ethernet 経由で接続された開発用ホストコンピュータで行います。

システム使用時の必要機材

当社から提供する評価用ソフトウェアを使用するには、以下の機材が必要です。

DECR-1000（本機）

「各部の名称と働き」（→ 9 ページ）を参照してください。

ディスプレイ

本機のグラフィックス出力表示用に、以下の一方または両方を使用します。

- PC モニタ
パーソナルコンピュータ用ディスプレイを、本機のモニター端子に接続して使用します。
- モニタ
480i, 480p, 1080i, 720p, 1080p のいずれかをサポートするモニタを、本機のHDMI 出力端子またはAVマルチ出力端子に接続して使用します。

開発用ホストコンピュータ

プログラムのコーディング／コンパイル／デバッグは、別に用意した開発用ホストコンピュータで行います。一般的なパーソナルコンピュータを使用することができますが、Ethernet 端子が必要になります。

その他の機能・性能要件は、別途提供される「Reference Tool ソフトウェアセットアップガイド」を参照してください。

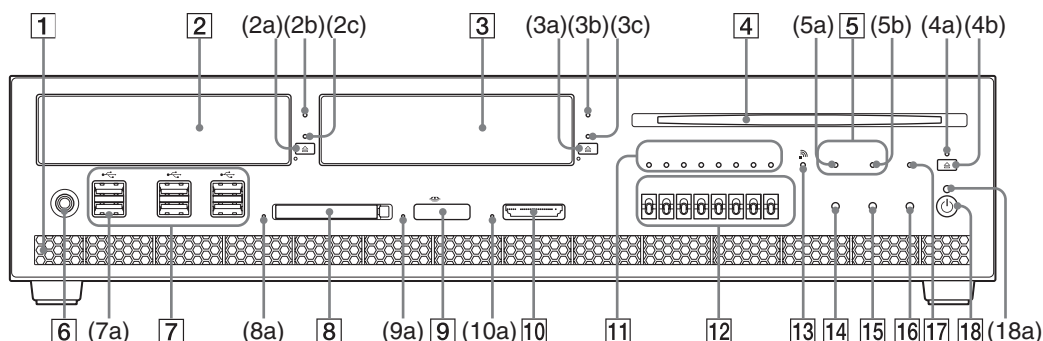
Reference システムのセットアップ概要

Referenceシステムを構築するには、以下の作業が必要となります。

- 開発用ホストコンピュータのソフトウェアセットアップ
別途提供される「Reference Toolソフトウェアセットアップガイド」を参照してください。
- Reference Toolのセットアップ
本書の「準備」（→ 14 ページ）を参照してください。

各部の名称と働き

本体前面



1 通風孔

通風孔はふさがないでください。発火や故障の原因となります。また、通風の妨げにならないように壁から充分離して設置してください。

2 HDDベイ

PLAYSTATION®3に搭載されているHDDと同等のHDDです。

ご注意

HDDを不用意に取り出すと、データの破損や、故障の原因となります。HDDを取り出すときは、HDDにアクセス中でないことを確認してください。

(2a) イジェクトボタン

(2b) HDD アクセスランプ
HDDへのアクセス中に点滅します。

(2c) イジェクトランプ
HDDが装着されているときに点灯します。

3 HDD (DEV) ベイ

Blu-ray Discドライブエミュレーション用のHDDです。

ご注意

- Blu-ray Discドライブと同時に使用することはできません。
- HDDを不用意に取り出すと、データの破損や、故障の原因となります。HDDを取り出すときは、HDDにアクセス中でないことを確認してください。

(3a) イジェクトボタン

(3b) HDD (DEV) アクセスランプ
HDD (DEV) へのアクセス中に点滅します。

(3c) イジェクトランプ
HDDが装着されているときに点灯します。

[4] Blu-ray Discドライブ

ご注意

HDD (DEV) と同時に使用することはできません。また、8cmディスクアダプターは使用できません。ディスクを取り出すときは、記録面を汚したり、傷を付けたりしないようにご注意ください。

(4a) **イジェクトランプ**
ディスクが入っているときに点灯します

(4b) **イジェクトボタン**

[5] DRIVE SELECT LED

(5a) **HDD (DEV) ドライブランプ**
HDD (DEV) が選択されているときに点灯します。

(5b) **BDドライブランプ**
Blu-ray Discドライブが選択されているときに点灯します。

[6] フットスイッチ接続端子

フットスイッチを接続します。

[7] USB端子

USB端子 (Aタイプ) を接続する端子です。

(7a) **EXTRA端子**
現在は使用できません。

[8] CFスロット

CompactFlash®をセットします。

(8a) **CFアクセスランプ**
CompactFlash®へのアクセス中に点滅します。アクセス中はCompactFlash®を抜き差ししないでください。CompactFlash®の故障やデータ破損の原因となります。

[9] "メモリースティック"スロット

"メモリースティック"をセットします。

(9a) **"メモリースティック" アクセスランプ**
"メモリースティック"へのアクセス中に点滅します。アクセス中は"メモリースティック"を抜き差ししないでください。"メモリースティック"の故障やデータ破損の原因となります。

[10] SDメモリーカードスロット

SDメモリーカードをセットします。

(10a) **SDメモリーカードアクセスランプ**
SDメモリーカードへのアクセス中に点滅します。アクセス中はSDメモリーカードを抜き差ししないでください。SDメモリーカードの故障やデータ破損の原因となります。

[11] GPOランプ

ユーザープログラムから制御可能なLEDです。
ブートシーケンスの段階に応じて点灯状態が変化します。

[12] GPIスイッチ

ユーザープログラムから利用可能なスイッチです。

[13] ワイヤレスLANアクセスランプ

ワイヤレスLANが使用可能な場合に点灯します。
アクセス中は点滅します。

14 リセットボタン

ターゲットシステムをリセットします。

15 ネットワークイニシャライズボタン

このスイッチを押しながら電源ボタンを押すと、IPアドレスの設定値を工場出荷時状態に戻すことができます。

16 システムイニシャライズボタン

このスイッチを押しながら電源ボタンを押すと、コミュニケーションプロセッサ側のシステムを工場出荷時状態に戻すことができます。

17 ステータスランプ

LEDの色と状態でシステムの状態が変わります。

赤（早く点滅）	システムの異常、もしくは本体内部が高温になっている可能性があります。しばらく時間をおいてからリセットボタンを押すか、主電源スイッチを一度オフにした後で、再びオンにしてください。
緑（ゆっくり点滅）	コミュニケーションプロセッサの起動中／アップデート中／システムイニシャライズ中／ネットワークイニシャライズ中
緑（点灯）	コミュニケーションプロセッサの起動が完了して正常に起動中

18 電源ボタン

ターゲットシステムへの電源供給をオン／オフするスイッチです。

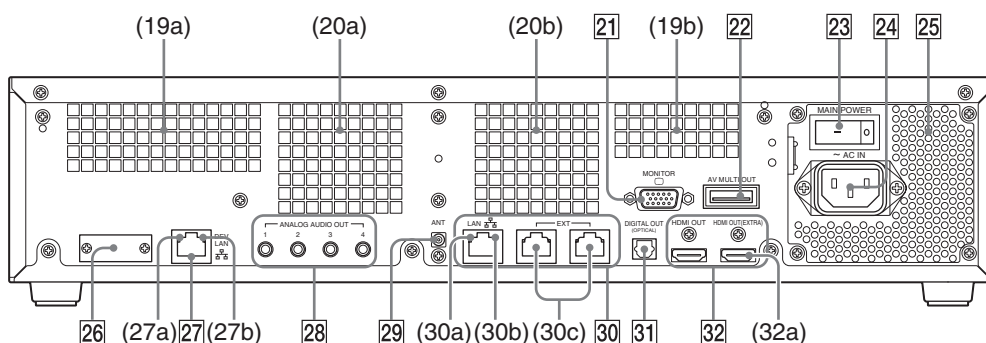
10秒以上押し続けると、システムを強制終了します。

(18a) 電源ランプ

LEDの色と状態でシステムの状態が変わります。

赤（点灯）	システムPower Off
緑（点灯）	システムPower On
赤と緑 （交互に点灯）	本体内部の温度が高温になっている可能性があります。電源ボタンをオフにして、しばらく時間をおいてから使用してください。

本体背面



19 (19a) (19b) 通風孔

通風孔はふさがらないでください。発火や故障の原因となります。また、通風の妨げにならないように壁から10cm以上離して設置してください。

20 (20a) (20b) 通風孔 (ファン)

通風孔はふさがらないでください。発火や故障の原因となります。また、通風の妨げにならないように壁から10cm以上離して設置してください。

21 モニター端子

VGA入力端子がある機器に接続します。

22 AVマルチ出力端子

AVマルチ入力端子がある機器に接続します。

23 主電源スイッチ

24 AC電源入力端子

25 通風孔

通風孔はふさがらないでください。発火や故障の原因となります。また、通風の妨げにならないように壁から10cm以上離して設置してください。

26 サービス専用端子

通常は使用できません

27 開発専用LAN端子

開発用ホストコンピュータと通信するためのデバッグ用ネットワークに接続します。
Auto Negotiationにより、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tをサポートしています。
また、極性自動判別機能を有しているため、開発用ホストコンピュータと直結する場合でも、クロスケーブルの代わりにストレートケーブルを使用できます。エンハンスドカテゴリ5、またはカテゴリ6のEthernetケーブルで、ギガビットハブなどに接続します。
端子の付近に、MACアドレスの表示があります。

ご注意

30 のPLAYSTATION®3専用LAN端子と混同しないように注意してください。

(27a) リンクランプ

デバッグ用Ethernetの接続速度に応じて、点灯状態が下記のように変化します。

消灯	10Mbps接続時／100Mbps接続時
緑（点灯）	1000Mbps接続時

(27b) アクティブランプ

デバッグ用Ethernetの状態に応じて、点灯状態が下記のように変化します。

黄（点灯）	LINK UP状態
黄（点滅）	ACTIVITYがある状態

28 アナログオーディオ出力端子

アナログオーディオ入力端子がある機器に接続します。

29 アンテナ端子

付属のアンテナを接続することで、ワイヤレスLAN通信およびBluetooth機能が使用できます。

30 PLAYSTATION®3専用LAN端子

Auto Negotiationにより、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tをサポートしています。
エンハンスドカテゴリ5、またはカテゴリ6のEthernetケーブルでギガビットハブなどに接続します。

ご注意

27 の開発専用LAN端子と混同しないように注意してください。

(30a) リンクランプ

Ethernetの接続速度に応じて、点灯状態が下記のように変化します。

消灯	10Mbps接続時／100Mbps接続時
緑（点灯）	1000Mbps接続時

(30b) アクティブランプ

Ethernetの状態に応じて、点灯状態が下記のように変化します。

黄（点灯）	LINK UP状態
黄（点滅）	ACTIVITYがある状態

(30c) 拡張端子

現在は使用できません。シールは、はがさないでください。

31 光デジタル出力端子

光デジタル入力端子がある機器に接続します。

32 HDMI出力端子

HDMI入力端子がある機器に接続します。

(32a) HDMI OUT(EXTRA)端子

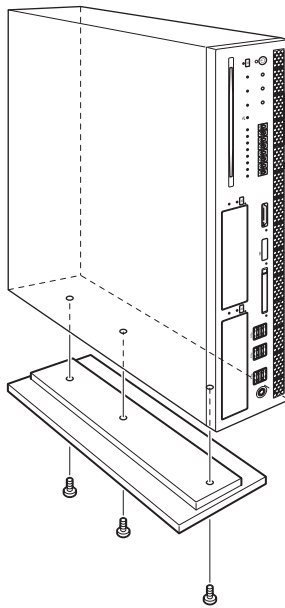
現在は使用できません。シールは、はがさないでください。

2 章

準備

縦置きスタンドの取り付け

本機を縦置きで使用する場合は、付属の縦置きスタンドを取り付けます。
スタンドの平らな面と、本機の左側面にあるネジ穴が重なり合うように配置し、付属のネジで固定します。



ご注意

- 取り付け作業は2人以上で行ってください。
- スタンドは、必ず本機の左側面に取り付けてください。
- 本機の左側面にあるネジ穴の位置が合わない場合は、スタンドの前後を逆向きに入れ替えてください。

ハードウェアの接続

1 電源ケーブルを接続する

主電源スイッチ（→ 12 ページ）がオフになっていることを確認してください。電源ケーブルの本体側コネクタには、あらかじめ付属の電源コード抜け防止カバーを装着しておきます。この状態で電源ケーブルのコネクタをAC電源入力端子（→ 12 ページ）に接続します。

電源コード抜け防止カバーは、電源にロックされるまで差し込んでください。はずすときは、電源コード抜け防止カバーのつまみ部分を持って引き抜きます。

2 ディスプレイを接続する

HDTVモニターを使用する場合は、HDMI出力端子（→ 13 ページ）にHDMIケーブルを接続します。もしくは、AVマルチ出力端子（→ 12 ページ）にマルチAVケーブルを接続します。

3 本機と開発用ホストコンピュータを接続し、デバッグ用ネットワークをセットアップする

詳しくは、「デバッグ用ネットワークの接続」（→ 16 ページ）をご覧ください。

4 その他のインターフェースを接続する

必要に応じて、ギガビットEthernet および USB機器を接続します。

Ethernetケーブル（エンハンスドカテゴリ5、または6）をPLAYSTATION®3専用LAN端子（→ 13 ページ）とギガビットハブ等の間に、USB機器のケーブルをUSB端子（→ 10 ページ）に接続します。（使用可能なUSB機器については、USB関連ライブラリのドキュメントを参照してください。）

デバッグ用ネットワークの接続

必要な機器を準備する

本機のデバッグ用ネットワークをセットアップするために、次のものがが必要です。

- 本機
- Ethernetケーブル×2
- Ethernetハブ
- AVマルチ480i またはHDMI 480p対応のディスプレイ
- 開発用コンピュータ

ご注意

工場出荷時の設定では、アナログRGBまたはPAL対応のディスプレイでは、デバッグ用ネットワークの初期設定を表示することができません。

セットアップに必要な情報

本機をセットアップするために、次の情報が必要です。

- DHCPサーバーの有無
- IPアドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス

本機を接続するネットワークの構成については、ネットワークの管理者に確認してください。

接続構成

接続するネットワークにDHCPサーバーがない場合

本機と開発用コンピュータの2台でローカルなネットワークを構築します。このとき、本機には自動的に次の固定IPアドレスが設定されます。

IPアドレス : 192.168.0.2
サブネットマスク : 255.255.255.0

ご注意

- IPアドレスとサブネットマスクは工場出荷時の値です。本機のネットワーク設定を変更すると、その設定によりこれらの値も変わります。
- 上記と異なる設定のネットワークに接続する場合には、一度ローカルなネットワーク上で本章の手順に従ってネットワークの接続を確認した後で、本機のネットワーク設定を変更してください。本機のネットワーク設定については、「管理ツールによるセットアップ」(→ 18 ページ) をご覧ください。本機と開発

用コンピュータのネットワーク設定を変更した後、既存のネットワーク内のEthernetハブに、本機と開発用コンピュータを接続します。

接続するネットワークにDHCPサーバーがある場合

ネットワーク内のEthernetハブに、本機とDHCPクライアントソフトを動作させた開発用コンピュータを接続します。この場合、電源を入れると、IPアドレスやサブネットマスクの設定が自動的に行われます。DHCPサーバーの設定によっては、DNSサーバーやデフォルトゲートウェイなどの値も自動的に設定されます。どの値が自動的に設定されるかは、ネットワークの管理者に確認してください。

機器を接続する

- 1 Ethernetケーブルで、本機とハブを接続する。
- 2 Ethernetケーブルで、ハブと開発用コンピュータを接続する。

開発用コンピュータを設定する

本機をセットアップする前に、開発用コンピュータを設定します。

接続するネットワーク内にDHCPサーバーがない場合

- 1 開発用コンピュータの電源を入れる。
- 2 開発用コンピュータのネットワークを設定する。
次の情報を設定してください。

IPアドレス : 192.168.0.1
サブネットマスク : 255.255.255.0

接続するネットワークにDHCPサーバーがある場合

- 1 開発用コンピュータの電源を入れる。
- 2 開発用コンピュータの設定をする。
DHCPクライアントソフトウェアを動作させ、開発用コンピュータであらかじめIPアドレスなどをDHCPサーバーから取得できるように設定してください。ソフトウェアを動作させるための設定やIPアドレス取得の方法については、開発用コンピュータの取扱説明書をご覧ください。

3 DHCPサーバーの設定をする。

DHCPサーバーからIPアドレスを取得する場合、通常、割り当てられるIPアドレスの値は毎回異なります。割り当てられるIPアドレスを常に一定にしておく、本機の使い勝手がよくなります。割り当てられるIPアドレスを固定する方法については、ネットワークの管理者に確認してください。

設定情報を確認する

開発用コンピュータとAVマルチ480i またはHDMI 480p対応のディスプレイを接続したあと、本機の電源およびターゲットシステムの電源を入れます。

1 主電源スイッチ（→ 12 ページ）を オン にする。

電源が入り、初期化が始まります。初期化中は、ステータスランプが緑色に点滅します。初期化が終わると、点滅から点灯に切りかわります。

ご注意

初期化中は操作しないでください。

2 電源ボタンを押す

電源ランプが赤の点灯から緑の点灯に変わります。その後、約30秒でターゲットシステムが起動します。

ご注意

起動中は操作しないでください。

3 表示内容を確認する

ディスプレイに、次の情報が表示されていることを確認してください。

- IPアドレス
- サブネットマスク
- ブロードキャストアドレス
- デフォルトゲートウェイの IP アドレス
- MACアドレス
- ホスト名

設定情報は次の場合にディスプレイに表示されます。

- 主電源スイッチをオンにしたとき
- 管理ツールでネットワーク情報を変更したとき
- IPアドレスの設定値を工場出荷時の状態に戻したとき
- コミュニケーションプロセッサ側のシステムを工場出荷時の状態に戻したとき
- 管理ツールの [dtnetm の再起動] を実行したとき

ご注意

- コミュニケーションプロセッサ側のシステムを工場出荷時の状態に戻すには、システムイニシャライズボタンを押しながら電源ボタンを押します。
- 工場出荷時の設定では、AV マルチ 480i、または HDMI 480p で出力されます。ビデオ設定を変更した後で、工場出荷時の設定値に戻すときは、電源ボタンを5秒間以上押し続けて、ターゲットシステムを起動してください。
- IP アドレスの設定値を工場出荷時の状態に戻すには、ネットワークイニシャライズボタンを押しながら電源ボタンを押します。

ネットワークの設定を変更する

設定の変更方法について詳しくは、「管理ツールによるセットアップ」の「ネットワーク」（→ 21 ページ）をご覧ください。

管理ツールによるセットアップ

セットアップの準備

開発用コンピュータを、本機が接続されたネットワークにつなぎ、Webブラウザが動作するように設定します。このとき、プロキシを使用しない設定にしてください。詳しくは、開発用コンピュータの取扱説明書をご覧ください。

本機の電源を入れる

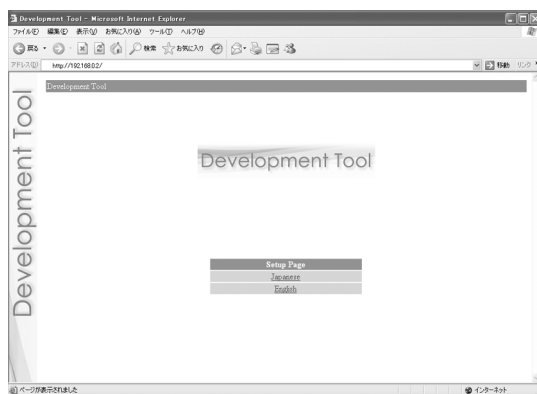
開発用コンピュータのデバッグ用ネットワークを設定後、本機の電源を入れます。

- 1 主電源スイッチ(→ 12 ページ)をオンにする。
本機に電源が入り、初期化が始まります。初期化中は、電源ランプが赤色に点滅し、初期化が終わると赤色に点灯します。

管理ツールを起動する

開発用コンピュータから管理ツールを起動します。ここでは、本機のIPアドレスを「192.168.0.2」に設定した場合を例として説明します。

- 1 開発用コンピュータで Web ブラウザを起動する。
- 2 Web ブラウザのアドレス欄に [http://192.168.0.2/] を入力して、Enter キーを押す。
言語選択画面が表示されます。



- 3 管理ツールの表示言語を選択する。
ログイン画面が表示されます。

ここでは、例として [Japanese] を選択します。

ログイン

ユーザー名とパスワードでログインします。



- 1 [ユーザー名]と[パスワード]に次の値を入力する。

管理者としてログインする場合

- ユーザー名: Administrator
- パスワード名: Administrator
- * 工場出荷時の設定です

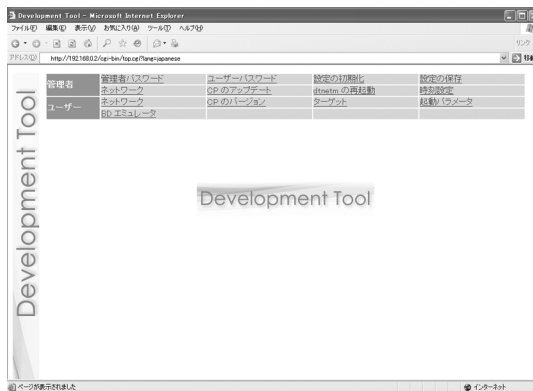
管理者としてログインすると、管理ツールのメニューに表示される全ての機能を利用することができます。

ユーザーとしてログインする場合

- ユーザー名: User
- パスワード名: User
- * 工場出荷時の設定です

ユーザーとしてログインすると、管理ツールのメニューに表示される [ユーザー] の機能だけを利用することができます。[管理者] の機能を利用することはできません。

- 2 [OK] をクリックする。
ログインに成功すると、管理ツールのメイン画面が表示されます。



管理者

本機の設定変更やソフトウェアの更新などの操作ができます。

管理者パスワード	管理者パスワードを変更します
ユーザーパスワード	ユーザーパスワードを変更します
設定の初期化	選択した設定項目を初期化します
設定の保存	設定を保存したり、保存した設定を本機に同期させます
ネットワーク	ネットワーク接続に必要な値を設定します
CPのアップデート	コミュニケーションプロセッサ用ソフトウェアをアップデートします
dtnetmの再起動	開発用コンピュータとDECIプロトコル経由で通信するプログラムを再起動します
時刻設定	時刻とタイムゾーンを設定します

ユーザー

本機の設定内容が表示されます。また、一部の設定を変更できます。

ネットワーク	ネットワークの設定を確認できます
CPのバージョン	インストールしたコミュニケーションプロセッサ用ソフトウェアパッケージのバージョンが確認できます
ターゲット	開発ターゲットの状態を確認できます
起動パラメータ	起動パラメータの設定の確認と変更ができます
BDエミュレータ	BDエミュレータの設定の確認と変更ができます

各種設定をする — 管理者

「管理者」の右側にある項目をクリックして各種セットアップをします。

管理者パスワード

「管理者パスワード」をクリックすると、次の画面が表示されます。ここで管理者を認証するためのパスワードを変更できます。



変更したいパスワードを、「パスワード」と「再入力」に入力します。「設定」をクリックすると変更が完了します。

ご注意

- セキュリティ保持のため、パスワードは工場出荷時の設定から必ず変更してください。
- パスワードの文字は半角英数字にしてください。英小文字だけや英大文字だけ、数字だけのパスワードは設定できません。
- パスワードは7～8文字です。7文字未満の場合は設定されません。また、9文字以上入力した場合は、先頭の8文字がパスワードとして設定されます。
- パスワードが間違っている場合や、「パスワード」と「再入力」の入力文字が一致しない場合は、警告画面が表示されます。もう一度入力し直してください。

ユーザーパスワード

「ユーザーパスワード」をクリックすると、次の画面が表示されます。ここでログイン時のパスワードを変更できます。



変更したいパスワードを、「パスワード」と「再入力」に入力します。「設定」をクリックすると変更が完了します。

ご注意

- セキュリティ保持のため、パスワードは工場出荷時の設定から必ず変更してください。
- パスワードの文字は半角英数字にしてください。英小文字だけや英大文字だけ、数字だけのパスワードは設定できません。
- パスワードは7～8文字です。7文字未満の場合は設定されません。また、9文字以上入力した場合は、先頭の8文字がパスワードとして設定されます。
- パスワードが間違っている場合や、「パスワード」と「再入力」の入力文字が一致しない場合は、警告画面が表示されます。もう一度入力し直してください。

設定の初期化

「設定の初期化」をクリックすると、次の画面が表示されます。ここで「ネットワーク/アクセス制御の設定」と「パスワード」の設定を工場出荷時に戻すことができます。



初期化する設定項目を選択して「確認」をクリックすると、初期化が完了します。

設定の保存

「設定の保存」をクリックすると、次の画面が表示されます。ここで本機の現在の設定を開発用コンピュータへ保存したり、指定ファイルの設定内容を本機に反映させたりすることができます。



本機の設定を開発用コンピュータに保存するには

[ps3tool.conf] を右クリックして、「対象をファイルに保存」を選択します。

ご注意

操作方法是お使いのWebブラウザによって異なります。詳しくは、Webブラウザの取扱説明書をご覧ください。

開発用コンピュータに保存した設定ファイルを本機に設定するには

1 開発用コンピュータの設定ファイルの IP アドレスが本機と同じかどうか確認する。

設定ファイルのIPアドレスが本機のもの異なる場合、テキストエディタなどを使って、ファイル内のIPアドレスを本機のIPアドレスに置き換えます。

2 「参照」をクリックして、本機に設定するファイルを選ぶ。

3 「設定」をクリックする。

本機に設定が保存され、情報が更新されます。

ネットワーク

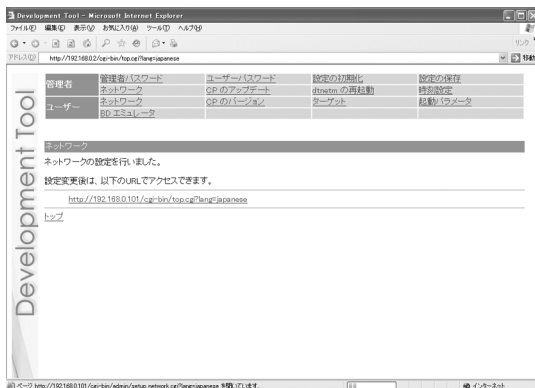
[ネットワーク] をクリックすると、次の画面が表示されます。ここでIPアドレスの取得方法やネットワーク設定に必要な値を変更できます。



ここで必要な設定を変更し、[確認] をクリックすると、次の確認画面が表示されます。



「設定」をクリックすると、設定処理が始まります。設定が完了したら、次の画面が表示されます。



必要に応じてネットワークの接続形態を変更し、画面に表示されているURLにアクセスしてください。

CPのアップデート

[CPのアップデート] をクリックすると、次の画面が表示されます。ここでコミュニケーションプロセス用のソフトウェアのアップデートができます。

- 1 開発用コンピュータ上の適当なディレクトリにアップデートファイルを置いて、[CPのアップデート] をクリックする。
次の画面が表示されます。



2 アップデートするファイルのパス名を入力して、**[確認]** をクリックする。
アップデートファイルの内容が表示されます。

ご注意

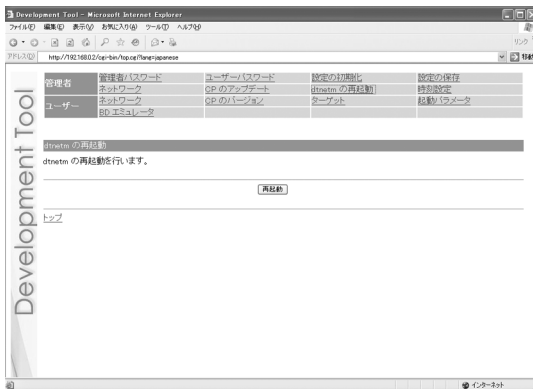
[確認] をクリックすると、すでにインストールされているファイルとアップデートファイルのバージョンチェックが行われます。アップデートファイルの方が新しいという確認やファイルの依存関係などの確認が行われます。「バージョンチェックを行わない」にチェックを付けると、確認が行われません。デフォルト (バージョンチェックを行う) で使用することを推奨します。

3 内容を確認して、[実行] をクリックする。
インストールが始まります。

内容が間違っていたら、[戻る] をクリックして内容を修正してください。

dtnetm の再起動

「dtnetm」は、本機と開発用コンピュータの間で、DECIプロトコル経由で通信を行うプログラムです。
[dtnetm の再起動] をクリックすると、次の画面が表示されます。



ここで [再起動] をクリックすると、dtnetm が再起動され、再起動のステータスが表示されます。再起動が完了すると次の画面が表示されます。



時刻設定

[時刻設定] をクリックすると、次の画面が表示されます。ここで日時とタイムゾーンの設定ができます。



年月日と時刻の値を入力し、タイムゾーンを選択します。[設定] をクリックすると設定が完了します。

各種設定をする — ユーザー

[ユーザー] の右側にある項目をクリックして各種セットアップをします。

ネットワーク

[ネットワーク] をクリックすると、次の画面が表示されます。ここで本機のネットワーク設定を確認できます。



CPのバージョン

[CPのバージョン] をクリックすると、次の画面が表示されます。ここで本機にインストールされたコミュニケーションプロセッサ用ソフトウェアのパッケージのバージョンとアップデート履歴を確認できます。



ターゲット

[ターゲット] をクリックすると、次の画面が表示されます。ここで開発ターゲットシステムの状態を確認できます。



起動パラメータ

起動パラメータの設定の確認と変更ができます。詳細は、SDK付属のドキュメントを参照してください。

BDエミュレータ

BDエミュレータの設定の確認と変更ができます。詳細は、SDK付属のドキュメントを参照してください。

3 章 その他

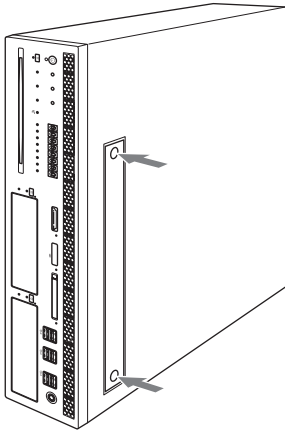
本機の取り扱いについて

- 故障の原因となりますので、電源コードが確実に接続されていることを確認してください。使わないときは、本機の背面にある主電源スイッチを切ってください。
- 本機の上に重たいものや燃えやすいものを置かないでください。天板が変形する原因となります。
- 周囲の急激な温度変化により、本体内部に結露が発生することがあります。結露のある状態で電源を入れると、故障の原因となりますのでご注意ください。

フィルタユニットのクリーニング

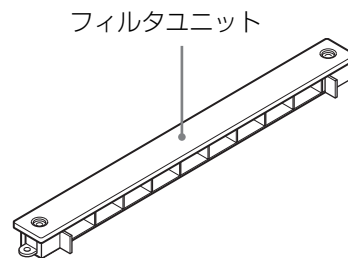
本体底面のフィルタユニットにごみなどが付着すると、故障の原因となります。定期的にクリーニングしてください。

- 1** フィルタユニットを本体から取り外す。
本体底面のネジを外します。



- 2** 取り外したフィルタを掃除機などでクリーニングする。

- 3** フィルタユニットを取り付ける。
ネジで本体に固定します。フィルタユニットには、取り付け方向があります。うまく取り付けられない場合は、前後を逆にして取り付けてください。



ご注意

本機を横置きにしている場合、フィルタユニットの取り外しおよび取り付け作業をするときは、2人以上で作業をしてください。本機が倒れると、けがや故障の原因となります。

故障とお考えになる前に

電源が入らない

→ 電源コードがしっかりと接続されているか、主電源スイッチ（→ 12 ページ）が入っているか、確認してください。

使用中に本機へアクセスできなくなった

→ 主電源スイッチはオンになっていますか？

電源ランプが点灯しているか確認してください。

→ Ethernetケーブルが外れていませんか？

Ethernetケーブルをしっかりと接続してください。

→ 別のコンピュータより本機の設定を変更されていませんか？

設定を変更されている可能性があります。ネットワークの管理者にご相談ください。

ネットワークの設定を変更したらアクセスできなくなった

→ ネットワークの設定は正しいですか？

設定されているIPアドレス／サブネットマスクの値で、現在接続しているネットワークにアクセスできるか確認して下さい。詳しくは、ネットワークの管理者にご相談ください。

開発用コンピュータと本機が正しく通信しているかどうかを確認するには、開発用コンピュータからpingコマンドを起動してください。pingコマンドの使用方法について詳しくは、以下の「pingコマンドについて」または開発用コンピュータの取扱説明書をご覧ください。

また、ネットワークイニシャライズボタンを押しながら電源ボタンを押すと、IPアドレスの設定値を工場出荷時の状態に戻すことができます。

pingコマンドについて

開発用コンピュータがLinuxの場合、pingコマンドを次のように入力します。

ping 本機のIPアドレス

正しく通信しているときは、一定の間隔を空けて次のように応答されます。

```
PING 192.168.0.2(192.168.0.2):56(84)data bytes
```

```
64 bytes from 192.168.0.2:icmp_seq=0
```

```
ttl=64 time=0.1ms
```

```
64 bytes from 192.168.0.2:icmp_seq=1
```

```
ttl=64 time=0.1ms
```

```
64 bytes from 192.168.0.2:icmp_seq=2
```

正しく通信していないときは、次のように応答がなく表示が停止したままになります。

```
PING 192.168.0.2(192.168.0.2):56 data bytes
```

このように表示される場合は、次のことを確認してください。

- 本機の開発専用LAN端子にEthernetケーブルが正しく接続されているか
- ハブにEthernetケーブルが正しく接続されているか
- 開発用コンピュータにEthernetケーブルが正しく接続されているか
- 開発用コンピュータのネットワーク設定が本機のネットワーク設定と同じか

これらの項目を確認後、開発用コンピュータからpingコマンドを起動します。
そのとき本機背面の開発専用LAN端子の横にあるランプを確認します。

主電源スイッチをオンしてから5分以上経過してもアクセスできない

→ 電源ランプは点灯していますか？

点灯している場合

- Ethernetケーブルやハブの不良が考えられます。ケーブルやハブを交換するか、ネットワークの管理者にご相談ください。

ステータスランプが赤く点滅している

→ ステータスランプ（→ 11 ページ）が赤く点滅している場合は、システムの異常、もしくは本体内部が高温になっている可能性があります。しばらく時間をおいてからリセットボタンを押すか、主電源スイッチを一度オフにした後で、再びオンしてください。

頻繁にステータスランプの点滅が起こる場合は故障の可能性があります。本製品の販売元までご相談ください。

記録メディアを使うと正しく動作しない

→ "メモリースティック"、CompactFlash®、SD メモリーカードの使用に起因する不具合については、メディアの販売元にお問い合わせください。

仕様

電源

入力電源 AC100V
消費電流 9A
定格周波数 50/60Hz

JIS C 61000-3-2 適合品

動作環境

動作温度 5℃～35℃
動作湿度 30%～80%（結露のないこと）

外形寸法（突起含まず）

424 × 88 × 596 mm
（幅×高さ×奥行き）

質量

約18Kg

Cellプロセッサ（Cell Broadband Engine）

クロック周波数 3.2GHz

メインメモリ

512MB

内蔵ペリフェラル

コミュニケーションプロセッサ（300MHz）

外部インターフェース

Blu-ray Discドライブ ×1

HDD×2

USB端子 ×4

EXTRA端子 ×2 （現在は使用できません）

"メモリースティック"スロット ×1

CFスロット ×1

SDメモリーカードスロット ×1

フットスイッチ接続端子 ×1

アンテナ端子 ×1

ワイヤレスLAN IEEE 802.11b/g準拠

Bluetooth Ver2.0 + EDR準拠

開発専用LAN端子 ×1

PLAYSTATION®3専用LAN端子 ×1

EXT端子 ×2 （現在は使用できません）

光デジタル出力端子 ×1
HDMI出力端子 ×1
EXTRA端子 ×1 （現在は使用できません）
AVマルチ出力端子 ×1
モニター端子 ×1
アナログオーディオ出力端子 ×4

付属品

電源コード ×1
縦置きスタンド ×1
アンテナ ×1
電源コード抜け防止カバー ×1
フットスイッチ ×1
取扱説明書 ×1

本機の仕様および外観は、予告なく変更することがあります。ご了承ください。

免責

当社が別途認める場合のほか、法律の規定により免責が認められない場合を除いて、当社はこの製品の故障などによる損害／費用に対して、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

"Blu-ray Disc" and  are trademarks.

The Bluetooth word mark and logos are owned by the Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by Sony Computer Entertainment Inc. is under license.

HDMI, the HDMI logo and High-Definition Multimedia Interface are trademarks or registered trademarks of HDMI Licensing, LLC.

Sony Computer Entertainment Inc. is an authorized licensee of the CompactFlash® registered trademark.

その他のライセンスおよび商標については、<https://ps3.scedev.net/>のPLAYSTATION®3 Programmer Tool Runtime Library パッケージ内のlicense.txtを参照してください。

SONY




COMPUTER
ENTERTAINMENT ®



株式会社 ソニー・コンピュータエンタテインメント

本機は国内専用品です。

また、本機は「外国為替及び外国貿易法」に基づく輸出規制品に該当しており、同法の定める特例に該当する場合を除き、経済産業大臣の許可なく日本国外へ持ち出すことは禁じられています。

権利者の許諾を得ることなく、この説明書の内容の全部または一部を複製することは、著作権法上禁止されております。

“”、および“PLAYSTATION” 株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。また、“Cell Broadband Engine” は同社の商標です。

“SONY” および “” はソニー株式会社の登録商標です。また、“Memory Stick” および “” は同社の商標です。